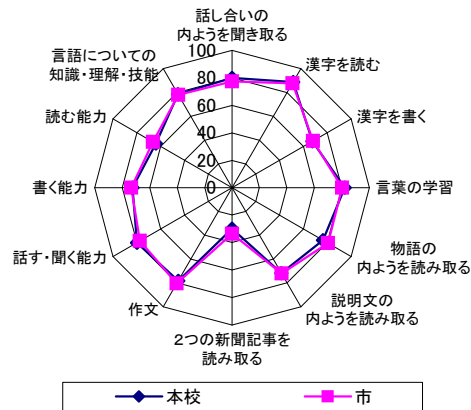


宇都宮市立緑が丘小学校 第5学年【国語】問題の内容別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
問題の内容別	話し合いの内ようを聞き取る	80.0	77.4
	漢字を読む	88.8	87.9
	漢字を書く	67.7	68.1
	言葉の学習	82.2	80.2
	物語の内ようを読み取る	76.4	80.6
	説明文の内ようを読み取る	71.9	72.3
	2つの新聞記事を読み取る	29.9	33.5
	作文	78.3	80.3
観点別	話す・聞く能力	80.0	77.4
	書く能力	72.6	73.4
	読む能力	64.1	66.4
	言語についての知識・理解・技能	78.7	78.2



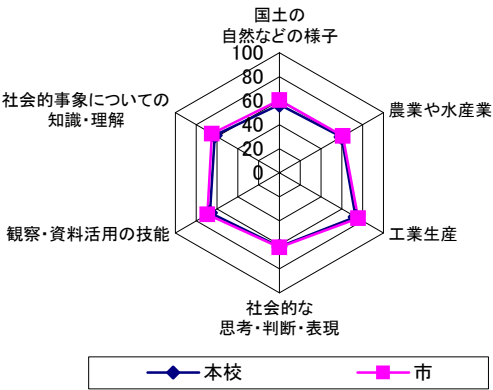
★指導の工夫と改善

問題の内容	本年度の状況	今後の指導の重点
話し合いの内ようを聞き取る	・全体的に市の平均正答率(77.4%)を2.6%上回っている。 ・司会者の工夫を考えながら聞いたり、話し手の意見の相違点を聞き取り自分の考えを話したりする内容で市の正答率を上回った。	・朝の会での1分間スピーチや、授業で話し手がどのような意図をもって話しているのか考えながら聞いて、内容を把握できるよう指導していく。 ・メモを取りながら聞く習慣を身に付けさせ、大切なことを落とさずに聞く能力を育てていくようにする。
漢字	・漢字を読むについては、市の平均正答率(87.9%)を0.9%上回り、書くについては0.4%下回っている。特に「底」の平均正答率は、54.2%で市の平均正答率を7.8%下回った。「残念」の平均正答率は、63.5%で市の平均正答率を6.1%上回った。	・朝のスキルタイムの活用や家庭学習において、漢字練習や短文作りなど学習方法を工夫したり漢字ミニテストを継続して行ったりすることを通して漢字についての習熟を図っていく。 ・既習漢字については、さまざまな作文活動において、意識して使うよう指導していく。
言葉の学習	・全体的に市の平均正答率(80.2%)を2.0%上回っている。 ・特に文脈に沿って漢字を適切に使うことは、市の平均正答率10.1%上回った。 ・ことわざについての平均正答率は87.0%で、市の平均正答率を3.2%上回った。	・接続語については、授業の中で使い方の確認をするとともに、さまざまな作文学習で適切に使えるよう指導していく。 ・新出漢字の学習の際には、同音(同訓)異義語についての理解を深めさせ使い方を指導していく。
物語の内ようを読み取る	・市の平均正答率(80.6%)を4.2%下回っている。 ・登場人物の様子を読み取る問題で、選択肢の1を選んだ誤答率が市では4.1%のところ、10.4%と高かった。	・長文に慣れさせるために音読学習を継続していく。 ・叙述に即して読み取ることの大切さを授業の中で繰り返し指導し、設問に対応した文を本文中で確認して、ラインを引かせるなど具体的に指導していく。 ・読書タイムの充実を図り、読書の楽しさを味わわせたり、本の紹介をし合う活動を通していろいろな本に出会えるよう支援したりする。
説明文の内ようを読み取る	・市の平均正答率(72.3%)を0.4%下回っている。 ・文章の内容を的確に読み取りまとめる設問での誤答率が、市では5.9%のところ、11.5%と高かった。花びらの根元とほかの部分の色の違いを的確に読み取り選択することができていない。	・説明文の最後の段落は、まとめや筆者の考えなどが書かれていることを再確認するとともに、指示語や接続語を考えて文と文の関係を的確に読み取るなど、説明文の読み取り方を身に付けさせていく。
2つの新聞記事を読み取る	・市の平均正答率(33.5%)を3.6%下回っている。 ・二つの文章の相違点について読み取ることの平均正答率は、市の平均正答率より3.1%上回っているが、共通点の読み取りについては、市より10.2%下回っており、選択肢1を選んだ誤答率が36.5%で、市の誤答率(21.5%)を15%上回っている。	・新聞記事を読み取る上で、どちらの立場から書いた記事が明らかにするとともに、見出しや最初の段落からだいたいの内容を把握できるようにしていく。 ・家庭でも新聞を読むことを通して、多くの記事に触れて考えたり紹介し合ったりすることを奨励していく。
作文	・市の平均正答率(80.3%)を2%下回っている。 ・特に二段落構成で文章を書くことが57.3%で、市の平均正答率(64.7%)を7.4%下回った。 ・行事に参加した時の感想を書くことについては、平均正答率が89.6%で市の平均正答率を2.1%上回っている。	・作文学習において、段落構成の仕方をしっかり理解させるとともに、段落構成を意識して書かせるようにする。 ・日常の出来事や身近な話題について、書かせる機会を意図的に設定し書くことに慣れさせるようにしていく。 ・児童同士が学び合う場を設け、表現力を高め合えるよう支援していく。

宇都宮市立緑が丘小学校 第5学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	国土の自然などの様子	56.8	60.4
	農業や水産業	59.7	61.0
	工業生産	73.3	75.7
観点別	社会的な思考・判断・表現	61.5	62.2
	観察・資料活用 の技能	66.5	69.4
	社会的事象についての知識・理解	62.2	65.0



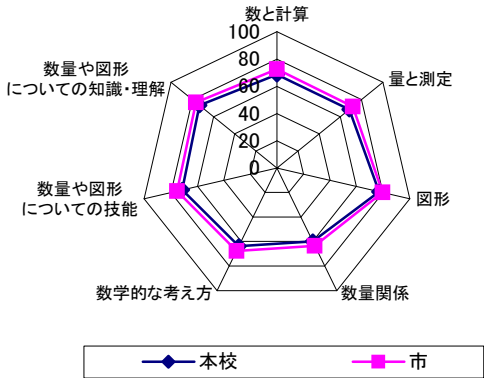
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然などの様子	・平均正答率は、宇都宮市の平均より3.6%低い。特に世界のおもな海洋名、日本の南端の島の位置や日本の国土や主な地形についての名称をきちんと覚えていない。	・世界の大陸名、海洋名、日本の位置や川、山脈、平野についてしっかりと覚えられるように、大型地図や地図帳、デジタル資料などを活用しながら指導していくとともに、プリント学習などの反復練習なども取り入れていきたい。
農業や水産業	・平均正答率は、宇都宮市の平均より1.3%低い。特に日本の米の消費量を増やすための取り組みや漁業の種類、生産量の変化についてグラフの読み取りを間違える傾向が見られる。	・折れ線グラフや帯グラフ、円グラフなどの資料から、必要な情報をきちんと読み取れるように指導していきたい。また、プリントなどを活用し、様々な問題に取り組ませ、資料活用能力の向上を目指したい。
工業生産	・平均正答率は、宇都宮市の平均より2.4%低い。自動車工業に関しての設問では、正答率が高いが、日本の工業地帯や工業地域に関しての知識が定着しておらず、グラフを読み取る力も劣っている傾向にある。	・自動車工業に関しては、実際に社会科見学を通して学習したこともあり、正答率は高くなったが、日本の工業地帯や工業地域に関しては、場所と名称を覚えていない児童も多い。地図帳やデジタル資料などを活用しながら指導していきたい。また、それぞれの工業地帯や工業地域の特徴について、様々なグラフ等の資料を活用しながら問題を解く練習などをして、しっかりと覚えさせていきたい。

宇都宮市立緑が丘小学校 第5学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	数と計算	68.6	72.5
	量と測定	68.2	71.5
	図形	76.8	79.6
	数量関係	59.9	63.5
観点別	数学的な考え方	63.8	67.6
	数量や図形についての技能	71.5	75.1
	数量や図形についての知識・理解	73.2	76.3



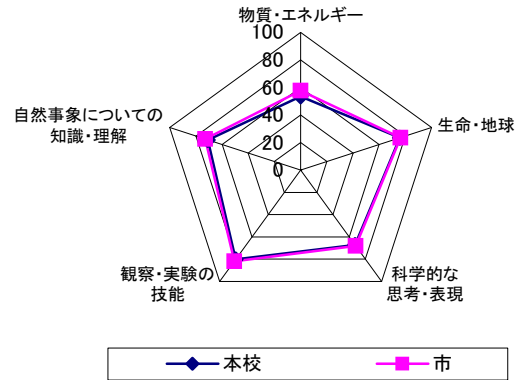
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	・正答率は68. 6%で、市平均(72. 5%)を 3. 9%下回っている。 ・小数の乗法の文章題の正答率が24. 0%で市平均(40. 0%)を16. 0%下回っている。 ・公約数の正答率が78. 1%で、市平均(74. 1%)を4. 0%上回っている。特に小数の計算のあまりの処理や整数を偶数と奇数に類別する問題で誤答が多かった。	・授業やスキルタイムなどを活用し、小数の計算や分数の計算のやり方について再確認する。 ・文章題については、立式の意味を正確に捉えられるよう、線分図を用いて考えるようにさせる。
量と測定	・正答率は68. 2%で、市平均(71. 5%)を3. 3%下回っている。 ・平均の求め方の正答率は89. 6%で市平均(85. 8%)を3. 8%上回っている。 ・体積の正答率は76. 0%で市平均(78. 3%)を2.3%下回っている。 ・面積と人数の割合を式に表す設問の正答率が40. 6%で、市平均(52. 3%)を11. 7%下回っている。	・平均や人口密度、直方体の体積のように公式で求められるような問題は比較的正答率が高いため、引き続き基礎的な知識・理解が定着するように取り組む。 ・単位あたり量の計算では、線分図を用いて計算する考え方を指導したが、やや不十分であった。今後さらに、線分図を用いて考えることが出来るよう継続して指導していく。
図形	・正答率は76. 8%で、市平均(79. 6%)を2. 8%下回っている。 ・図形の角の正答率が89. 6%で、市平均(88. 5%)を1. 1%上回っている。三角形や四角形の内角を求める問題では、正答率が高いが、多角形の内角を求める問題になると誤答が多くなっている。	・図形の問題に対しては基礎的な知識や技能は身に付いているといえるが、多角形の内角の和の求め方や直角の記号などの意味などを、授業中の復習などを通して定着させる。また、視覚的な資料も活用する。
数量関係	・正答率は59. 9%で、市平均(63. 5%)を3. 6%下回っている。 ・数量関係の計算や変わり方調べの正答率が69. 8%で、市平均(72. 3%)を2. 5%下回っている。伴って変わる二つの数量の関係を式に表す設問の正答率が50. 0%で、市平均(54. 6%)を4. 6%下回っている。	・分配法則を利用する問題では、理解できていない児童が多い。算数プリントや復習を通して、分配法則の意味を再確認するとともに、法則を利用できる場合、どんな手順で解いていくのかなどを再確認しながら習熟を図りたい。また練習問題を繰り返し行い、公式として覚えられるように指導したい。

宇都宮市立緑が丘小学校 第5学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	物質・エネルギー	53.6	57.6
	生命・地球	75.9	76.3
観点別	科学的な思考・表現	67.2	68.1
	観察・実験の技能	80.3	82.0
	自然事象についての知識・理解	70.9	72.7



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	- 正答率は53.6%で、市平均57.6%より4%下回っている。 - 空気の温まり方の正答率は市の平均より6%上回っているが、水と金属の温まり方の正答率は9%下回っている。 - 実験器具の名前を答える問題の正答率が市の平均より10%下回っている。	1年近く以前に学習した内容も復習を行い、定着を図るようにしていく。 - 難度の高い問題を多く扱うようにしていく。 - 実験器具に触れることができる機会を増やしたり、実験器具の名前や使い方について再確認できるような問題を取り組ませたりする。
生命・地球	- 正答率は75.9%で、市平均76.3%とほぼ同様である。 - 台風の進路を答える問題(正答率92%)や、川岸にブロックがある理由を答える問題(正答率89%)は、市の平均より10%上回っている。 - 顕微鏡の使い方の正答率は、市の平均を概ね上回っているが、使う場所についての問題の正答率が75%であり、市の平均より10%下回っている。	- 顕微鏡や上皿天秤の使い方の詳細についての定着を図るような学習を継続して行っていく。 - 実験器具に触れることができる機会を増やしたり、実験器具の名前や使い方について再確認できるような問題を取り組ませたりする。